

事件事例集を普及し、事故防止に役立てよう！

——事故防止のためのツールとして積極的に活用しよう

県連遭対部：望月

愛知県勤労者山岳連盟(県連)は、事件事例集(第一集)「事故はこんなに身近なところにある」を発行してから、25年ぶりに、第二集「他に学び、事故をなくそう」を発行しました。

第二集に収録された事故件数は、390件+(付録)22件で412件です。これまで何度かそれらの事例を整理し事件事例集の続編を発行し、事故防止に役立てたいという要望がありました。様々な事情で手が付けられないまま推移してきました。しかし、時間の経過とともに事故の全体像を知っている仲間も少なくなり、そこから導き出された教訓の風化や記録の散逸などの恐れも出てきたところから、遭対部では第48期(2016年)に編集委員会を立ち上げ、事件事例集(第2集)の編集作業を進めてきました。

第二集では、1991年3月～2016年1月の間に起きた事故で、県連盟に報告されたものを整理しました。事例集の目的や役割は、第一集発行時の意図を踏襲しつつ、さらに第二集では、会員の皆さんが事故の態様や負傷の程度、登山形態から、いつ、どのような事故が起きているかを、必要に応じて参照しやすく、事例を知ることでその中から「具体的な事故防止策」を考えることができるようなまとめ方を試みています。

この第二集を一刻も早く仲間へ届け、多くの事例に学んで事故防止に役立てて頂きたいと切に思います。この冊子は、頒価500円です。各山岳会では、遭対担当者を中心に、積極的な普及をお願いします。

なお、2月の労山全国総会で、来賓、正副会長、正副理事長、事務局長そして全地方連盟に配布し、代議員として、事件事例集を発行したことの意義、必要があれば購入して欲しいと訴えました。会場で、いくつかの地方連盟の代議員から事例集をまとめる作業の大変さや発行することの困難さについてねぎらいの言葉を頂きました。ある地方連盟からは、加盟山岳会数の予約注文を頂きました。

また、目の前で4人が滑落してくる経験をしたある山岳ガイドからは、「原因や教訓とすべきことがそのまま隠されてしまったり、埋もれてしまったりすることが多い」わけで、「失敗例をどう生かすかこそが今日の登山界に求められていると思っております」と熱いメッセージを頂きました。

